

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 22 年度】

[追跡評価 (外部競争資金)]

	研究課題名	研究の概要	提案機関へのアドバイス
	主担当部署		
	研究期間		
1	アパタイト型イオン伝導体の緻密な薄膜の作製	中温域 (500 ~ 600) でのイオン伝導度の向上に成功した電解質材料 (アパタイト型イオン伝導体) を用いて、その薄膜化を実現することにより、将来中温域で高性能を有する水素 - 酸素燃料電池の開発を目指した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ H18 年の研究から着実に成果を積み重ねている。なかなか実用化・製品化へと話が進まないのは、まだ何か企業のニーズに対応仕切れていない部分が残されているのではないか。その足りない部分を把握して技術を改良することにより、実用化が早く実現することを期待している。 ・ 競争、技術進歩が激しい分野では後追いではない研究が公設試の役割なのかも。期待している。 ・ イオン伝導体の耐久性について、その向上に向けたサポートシステムを構築してはどうか。 ・ 薄膜の S O F C でイニシアティブがある。企業との共同研究を今後期待する。 ・ できるだけ早期に技術の確立をしてほしい。 ・ スピードアップと技術の有償提供を図ってほしい。
	環境・バイオ部		
	平成 18 年度 (1 年間)		
2	極小径穴開け加工システムの開発	金属板への高能率な極小径の穴あけ加工を実現するため、磁気浮上テーブルを応用してトルク、スラスト等の加工現象を計測かつ適正制御する機能をもつ極小径用穴あけ加工システムを開発。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術の普及を妨げている要因はコストにあるとのことだが、付加価値の高い高価な製品への応用から始める等、成果が早く製品化されることを期待している。 ・ 優れた技術なので、早急な市場調査を実施してほしい。 ・ 軟らかい材料など他の使用法を調査されたい。ニーズとしては、かなり多いと思われる。 ・ 微細穴加工のニーズは多い。多方面での活用を期待する。
	ものづくり開発部		
	平成 18 年度 (1 年間)		